

学校法人 埼玉福祉学園 埼玉福祉・保育専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【平成29年6月29日実施】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		現状の取組状況	課題	今後の改善方策	委員評価	
		優れている:3 適切:2 改善が必要:1					優れている:3 適切:2 改善が必要:1	学校関係者評価委員の御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3		教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を明文化している。また、学園の建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学校・学科のイノベーションを図っている。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念の下に明確な教育方針を掲げ、高い意識で人材育成に取り組んでいる。 ・教育理念・教育目標・事業計画が確立され、文書化もされ周知されている。 ・事あるごとに理念等が話され、職員等への周知が出来ていると感じられる。 またその理念等をもとに、指導やカリキュラム等が組まれていると感じられ、実学・人間教育がなされていると感じます。一点、国際教育については、学校のカテゴリから合わせるのには難しいと思いますが、他の2つに比べて薄いように感じます。親御さんの経済状況等で難しいと思いますが、海外研修に行く為の費用を安価にする交渉や、報告でありました、逆に海外の講師や学生などに日本に来てもらう取り組み等を工夫され、学生の視野が広がる取組が広がる事に期待します。 ・入学式など様々な場面で、学校の教育理念・目的・育成人材像を常に前面に出して、学校全体としての取り組み姿勢を明確にしており、素晴らしいと感じています。 ・現場に落とし込み、実行していくことは難しいが、全職員心をひとつに頑張りたい。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3		教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。また、東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会等と連携している。	特になし			
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3		LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	特になし			
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3		事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし			
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		事業計画を5か年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOMミーティングなどがある。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を自ら点検するシステムを構築し、健全な学校運営を推進している。合理的な発想を兼ね備え、組織として統制が取れている。 ・入学者が減ってきていると思います。少子化等でやむを得ないと理由も思いますが、福祉人材を増やす為、介護のイメージアップの為の取組をされる事も必要と思います。その為に、中学高校等へのアプローチを行い、進路指導の先生だけではなく、介護教室の開催などを企画するなどして、学生に直接伝える機会を増やしてはどうかと思います。 ・業務やマニュアル等がシステム化されて良いと思いますが、福祉という分野において、人間教育は特に必須であると思います。全てがシステム化・マニュアル化されていられないようご注意頂ければと思います。 ・情報システム化は業務の効率化が第一目的であろうが、当然ながら、運営のレベルアップのため、そのデータの分析や活用も取り組んで欲しい
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3		チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3		理事会・評議委員会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3		組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし			
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3		学園本部による人材採用、給料規定が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。	特になし			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3		意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし			
	2-7-1 情報システム化に取り組む、業務の効率化を図っているか	3		AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また近年ではipadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。5月をデータプライバシー月と指定して、各PCのデータの適正化、不必要なデータ削除を実施している。	ipad入力のミスは減少している。新任講師、入力が得意な講師向けの対策が必要である。	講師へのipad使用の勉強会、個別指導		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づいて実施している。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関として根幹を成す部分だと思うが、現状に満足することなく更なる高みを目指し、改善を図っている点は評価出来る。 ・学校運営の方針・組織はよく整備されている。 ・学内上布尾の教職員や学生による効率的な活用及び現場の意見や情報の汲み上げや活用にも一層努力いただきたい。 ・授業評価でアンケートで指摘を受けた事に関して改善がされて、学生が満足出来る環境にして頂きたい。 ・授業だけではなく、その時間以外も重要な時間と捉えられ、学生に寄り添った活動がされていると感じます。 また、地域等との繋がりがも大切にしながら、上手く教育にもリンクさせており、知識や技術だけではない教育活動が出来ていると思います。 ・多くの卒業生を見てみると、教育目的・目標に沿った教育活動が行われていると感じることが多い。 ・貴校の学生だけでなく、最近の学生は様々な場面で積極性に欠けることが多い。発言・提案・活動などを、言われるまで待っているのではなく、自ら積極的にいけるよう指導が必要だと感じる。 ・教員の採用・育成・定着が難しい社会状況であろうが、教育は人、大変だろうが一層力を入れて欲しい。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。また、資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している	特になし			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。シラバス、コマシラバスも全ての授業で導入している。学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かす。	実習特に業界(施設)での実習の評価基準、評価のあり方については再度明確化する必要がある。	教務部長を中心に各学科で検討を進める。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、各種業界との行事、日常の実習巡回を通じて業界の意見を取り入れている。	特になし			
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系だてた教育を実践している。	特になし			
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	前期・後期それぞれ1回学生による授業アンケートを実施している。	年1回講師面談にて授業アンケートの内容を講師へのフィードバックはしているが、時期や方法、その後の効果測定が課題。	オープン授業等、通常授業で効果測定を実施する。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。	特になし			
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、卒業研究の内容についてはレジメを冊子にまとめています。	特になし			
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料でやっている。	特になし			
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写しも確認している。また、教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。	特になし			
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	2	常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。学園グループの教育研究・研修期間(JESC)にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。	非常勤講師への研修が不足している。	講師会議の内容の見直し。非常勤講師向け研修会の実施		
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。FD研修の開催。	非常勤講師との連携についてはまだ課題があり協力体制が築けているとは言えない。	講師とのコミュニケーション方法のシステム化、研修会、勉強会の検討			
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は職員のPUBで随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。模擬面接会を開催し、分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行っている。	特になし		2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・資格・免許取得や就職率向上に尽力している。卒業生とのネットワークに関する問題点は、卒業生側に起因する要因が多いと考えられる。 ・各教員のレスポンスや学生指導の学内公開や教員間周知を図り、教職員の協力・連携による授業授業力向上、資格取得指導向上等(特に非常勤講師)をさらに図って欲しい。 ・様々な教育活動を展開していることに驚嘆する。これらの教育活動が成果を上げているのか?例えば、専門学校教育の特色である「できる」ようにするために「やらせる」という観点から検証して必要がある。 ・卒業生の社会的評価の情報集約は大変かと思いますが、より効率的、精密な情報収集手段が必要かと思いますが。例えばメールサービス等で勤務先、役職等を送信していただくシステムの構築なども検討して頂きたい。 ・貴校は地域等への関わりを通して、福祉だけではなく経験を生かして学生にさせており、とても良いと思います。その中で、様々な出会いがあり、自分の将来を変えるきっかけになる学生もいると思います。その為、就職率の目標については、あくまで希望者の100%を目指して欲しいと思います。 卒業後のフォロー体制など、とても良く取り組まれていると感じます。引き続きの支援を望みます。 ・現状、ほとんどの分野で卒業生は売り手市場とは言え、希望する就職先への就職率向上を目指して様々な活動を行い成果を上げていることを高く評価しています。 ・これからは介護福祉士の国家試験対策が極めて重要になってくる。学生の質・レベルの課題はあるが、全員合格を目指して努力して欲しい。その成果が高いレベルになれば、学校の評価も高まり良い入学者の確保にも繋がると考える。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。国家試験対策研修会に参加し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等の見直しを図っている。	特になし			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業1年の離職調査を継続的に行っており、卒業生情報の集約に務めている。	卒業生の情報は元担任などの個人知が多く、情報共有やそれら活躍を学校案内等に出し切れていない。	情報共有のしくみの構築		

5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは定期的に会議を行い情報共有している。また、PUB内でも活動状況を共有している。説明会の実施も業界と連携している。また就職活動マニュアルを作成しており学生指導している。	特になし			3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育、高等教育を修了し、選挙権を得ている18歳以上、且つ自ら専門職を志して己の意思で入学した学生に対し、学校はどのレベルまで保護しなくてはならないのであろうか。保護者の責任も多々あるものと認識しているが、あくまで学校として出来る支援は行なうという姿勢に感銘すら受ける。学生に対する愛情を感じる。 ・学生支援をきめ細やかに行っている。 ・退学率の低減、学生が相談しやすい環境づくり、対人関係、学修上の問題、経済的問題、多様化した学生からの相談や悩みへの適切な対応及びカウンセリング体制の充実をお願いします。 ・様々な場面で、学生を中心に考えたサポート・フォローが出来ていると感じます。様々な問題等を抱えた学生等が多くなって来たと思いますが、変わらぬ支援を望みます。 ・社会全体として精神疾患の人が増加して、様々な職場で、学校で、家庭で対応に困っている状況です。特に、福祉を目指す人は、気が優しく、素直で純粋な気持ちの人が多く、様々なストレスに弱い面があるかと思えます。職場でも、上司や先輩がメンタル面を気にしたり、そうした時の相談相手になれればいいのですが。精神保健福祉士を目指す教育課程もある学校でもあるので、内外関係者との連携も含めて努力して欲しい。 ・留学生に対する体制整備は、今後避けられない課題ではあるが、入学生を安易に外国人に頼るのではなく、今後も日本人の入学希望者で出来るだけ充足するよう頑張りたい。外国人が多くなると、日本人の減少が加速して、学校運営に負担が重くなるだけで、教育の質も担保出来づらくなる。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	退学数は開講以来数字で集約、分析している。また、学生相談室を設置し学生サポートとして担任と連携している。年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。	退学につながる問題発見は、早期からできていたが問題に対する適切な対応とその遅れがあった。	問題を抱える学生の情報を学科・教務・関連部署で共有し、一人ひとりに合わせた、解決プランの作成と実行スケジュールを立て会議等で定チェックをする。			
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。またJTSC(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。	精神疾患の相談件数が重度化しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。	精神保健福祉の専門の専任や非常勤講師と連携を組み対応策を検討していく。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。担任など複数人で留学生支援チームを結成し週1回の情報交換の場を作り、学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。	本部の国際センター、グループ校で留学生受け入れ実績の多い学校へのヒアリング等			
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	2	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。学校独自の奨学金は今のところ制度としてはない。生活保護家庭や児童養護施設出身者に向けて制度を整えていく必要がある。	生活保護や児童養護出身者など経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。				
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、救命救急士、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。担任からの受診促進。			
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし				
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	SCWクワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年15回程度行っており、また学生スタッフ活動も地域活動を行い貢献している。	特になし				
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに保護者との個別面談などを適宜実施している。保護者との連携に必要なキャリアデザイン・コミュニケーション科では保護者会を年4回実施している。その他の学科は全体説明としての保護者会よりも個別面談を重視している。	協力が得られない家庭への対応。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。			
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業1年目の卒業生に対してキャリアアップ勉強会を実施している。再就職支援は個別に実施しており、成果を上げている。	同窓生主体の同窓会とはなっておらず、学校が主体となっている。	年度ごと、あるいは地域ごとに同窓会組織をつくり会合をもつなどして情報交換する。			
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	埼玉県老人福祉協議会と連携して「高齢者福祉研究大会」を実施。また「卒業研究発表会」、「日本の福祉現場力を高める研究大会」など業界連携している。	特になし					
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人入学者は毎年3割程度おり、学校案内や説明会で対応している。図書室には司書を配置し自習環境も整えている。	特になし					
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修も行っている。	特になし			2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの学生が集う以上、防災対策は不可欠。有事に際し「学校が地域の防災拠点として機能する」という覚悟や使命感も必要と思われる。 ・防災訓練はとて大切であり全員に訓練を実施して欲しい。「訓練で出来ない事は、本番でも出来ない」訓練をしっかり行っていれば迅速かつ冷静な行動がとれると思います。 ・いつも来校しても綺麗にされており、勉強する環境が整っていると感じます。 ・非常用備蓄についてはただ備蓄するだけでなく、期限切れになりそうなものをベルエポックの学生さんにアレンジして貰うなどの企画をするなどに繋げていって、地域ぐるみで防災を身近なものにしていくには如何でしょうか？ ・学外学習の現場に来られる巡回指導の先生は熱心にされており感心する。施設側でも、職員を実習指導者として担当させることで、職員自身の勉強にもなり良い。実習指導者の研修にも学校としてもう少し日時をとってやっていただければありがたい。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	実習については、学科ごとに実習要綱を作成し、また実習指導者には事前に学校で研修を実施している。また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。学校行事は学園祭や地域行事、運動会など学生主体で運営を行っている。	特になし				
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	2	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようになっている。	非常時の食料や防災グッズについて保管場所がなく準備できていない。	保管場所含め校舎使用について検討していく			
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。非常時持ち出し用の名簿も職員室内に置いてある。	特になし				

7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉職の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。(介護は3Kの仕事のような認識)	業界と連携して説明を続けること。高校教員向けの福祉セミナーなどの実施	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集については熱意を持って取り組んでいると感じられる。受け入れに関しても適切な対応が取られている。 ・きめ細かく高校訪問をしていることが成果を上げている。しかし、介護分野への高校・社会の認識は良くない。福祉職への正しい理解を得る多面的活動をしていただくと同時に、福祉の専門職としての認識向上や「国民の介護予防」「体力向上や生活改善」「健康増進・健康管理」等々の多様な分野でも活躍できることを周知して欲しい。 ・パンフレット等を通して、学生の目を引く仕組みを考えられていると思います。 ・学生募集は学校にとっても、介護業界にとっても極めて重要な問題である。一口に介護業界と言っても、社福・民間会社・NPOなど経営主体も違い、サービス内容・規模・経営の考え方もちがうが、マスコミなどは纏めて、または一部の悪いところを見て、3K、薄給、大変、人手不足、ブラックなどと報道するので、高校の先生や家族も良い印象を持っていない。本質的には、関連業界上げて、長い目で見ての介護職などのイメージアップ戦略を考える必要があると思う。 ・まともの悪い業界なので、当面はそれぞれの立場で働いている人が幸せな良い職場、施設になるよう努力して、輪を広げ、PRしていくしかないかなと思う。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。入学案内のほか、学科ごとに冊子を作り、正しい業界の理解、学校の理解が得られる工夫をしている。	特になし			
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	募集要項に選考基準や入試方法は記載されており、入試ごとに判定会議を行って公平な審査が行われている。	特になし			
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	数値データは毎週行われる広報会議でチェックしながら分析、対策を打って、運営会議で報告をしている。また、財務を担う関連会社とも適宜打ち合わせを行い実学生数と財務の数字をチェックしている。	特になし			
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし			
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの入学辞退の申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし			
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	定員充足はできていない。	介護福祉士については分野の魅力の適正な広報、また学科内容のイノベーションを図りながら顧客目線で教育を改革していく。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の対応は適切である。 ・必要な情報公開も実施している。 ・入学者の確保、定員充足がまず重要。その為にも、さらに、社会から認知され、評価される学校になるよう頑張ってください
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし			
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している	特になし			
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし			
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし			
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし			

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。 学園本部にはセクシャルハラスメントの相談窓口がある。 学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・法令の遵守が仕組み(システム)として構築されている。 ・法令遵守、情報公開は時代の要請 ・学生に対するソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っているところがあるが、極めて重要と考える。うまく利用してもらえれば、学校のPRにもなるが、好ましくない利用で問題が起き、学校や個人の信用を失うこともあるので教育は重要。 ・ホームページを見ると、スマホ(あるいは、パソコン)どちらで見ても良くできている
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、苑職員に対して個人情報保護の研修を実施している。 学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし			
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページで学校情報の公開、さらにツイッターやブログで教育活動を公開している。	特になし			
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	埼玉県老人福祉施設協会と協同で高齢者福祉研究大会を実施している。 委託訓練生を積極的に受け入れている。(H28年度9名、H29年度19名入学) 精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。 滑川総合高校に福祉授業に講師派遣を行っている。 クラーク高校とは年間を通じて福祉授業を本校で開講している。 地域清掃、バトロールに職員、学生で積極的に参加している。 日本の福祉現場力を高める研究大会を実施し、福祉人材不足の解消、地位向上に取り組んでいる。	特になし		2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に対してどこまで社会貢献を要求するにも依ろう。地域清掃や夜回り活動は目に見える地域貢献の最たるものだが、学校の存在そのものが「周辺地域を文教地区として保存する役割を果たし、商業地域化を抑制する防波堤としての機能を果たしている。 ・社会・地域貢献を前向きに取り組んでいる。学生の学習効果を生かす場、社会性やコミュニケーション能力を高める場としても、さらに推進して欲しい。 ・社会人や留学生を学生として受け入れることが必要になってきているので、社会人等に向けた公開講座や社会福祉協議会等との連携による「家庭介護教室」の開催等を検討いただきたい。 ・国際交流を取り込む事により、自分でも気づかなかった自らの文化の長所を伸ばし、自らの魅力、価値をより高めるきっかけとする事が出来ると思います。今後も積極的に取り組んで欲しい。 ・ボランティア活動はとても素晴らしいことだと思います。自ら進んで行動し、見返りを求めず、共に支えあい、学び合う、そしてより良い社会を作り出す。こちらも積極的に取り組んで欲しい。 ・学生を交えたボランティア活動や社会貢献活動が盛んに出来ていると感じます。 ・そのような活動を通して、普段福祉が身近ではない一般の方々に、福祉の世界を知って頂く機会が増えていく事を期待しています。 ・社会貢献、地域貢献は法人として非常に重要であり、良くできていると思います。 ・学生が道に広がって歩いたり、ゴミを捨てたり、うるさくお喋りしながら歩いたりして地元の方に迷惑をかけないようマナー良く共存することも、出来ていると思いますが指導もしてください。 ・学生時代の海外研修・交流は非常に有意義と考えるので、出来るだけ多くの学生が参加出来るよう配慮、あるいは支援制度があれば良い。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	ウエストフロリダ大学(UWF)と日米福祉学会を実施している。 また、UWFからは日本での交流会も実施している。 また国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。	留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。	学園の国際センターとの連携、留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	ボランティア専用の掲示板を設け、学生の参加を積極的に促している。	学生のボランティア活動の実績や実態把握までできていない。その情報の共有もできていない。	ボランティア報告書を提出してもらいファイリング、データ化する。		